

それは創世記や有史以前の部分で全編に渡り偶然の一致とは思えない程の粗筋や状況判断、底辺に流れた民族の思想等に類似性が認められた内容だった。しかし日本の考古学者の説では、古代ギリシャと関係したスキタイ人に神話が伝わり、更にアルタイ系の遊牧民の中間伝承者に伝わって伝承を受け継いだ彼等が遠く日本列島まで海を渡って来て、約二〇〇〇年と云う隔たりを超えて日本に住む人々に影響を与えて、その神話を大和朝廷が自らの物語として取り入れたと云うのだった。更に一部の説では、古代シュメール人が王国の滅亡した紀元前二〇〇〇年前頃から二〇〇〇年以上の歳月をかけて日本列島に来て、彼等の神話を日本人達に伝えたと言張した。しかしシュメール文化と大和政権では、その王制や文字、風俗・習慣が違い過ぎており、神話だけを受け入れて其れ以外の部分を破棄したとは到底考えられなかった。しかもシュメール王国の歴史や、前後の時代を表す内容が日本神話には含まれておらず、その事からもこの説の可能性は少ないと思えた。それは古代ギリシャや古代エジプト等の神話に共通性が在ったので、両地域に神話を伝えた古い民族又は両地域で神話を知った民族がいたとしても、話の内容がここまで似ると中間の伝承民族に神話が残っていたか、文字で残されないと日本に来て伝承する事は不可能だと思われた。更に日本に伝えた中間の民族は遊牧民や海洋民族しか考えられず、日本とは宗教観や価値観、民族性が違い全体的に話の内容が変わる可能性が高かった。

更に縄文時代に分かれた縄文人の一派で北海道のアイヌ民族の民話に日本神話に似た話が沢山在ったが、アイヌ人は長い間日本人の言葉や文字を取り入れなかった程に自分達の独自性を大切にした民族だった。そんな彼等に伝承が伝わった時期を考察すると、彼等が神話を受け入れたのは縄文時代と思われたが、アイヌ民話の内容が各地方に依って変

化しており、多くの部分で日本神話に似ていたのがギリシャ神話であり、その話の内容や主旨がアイヌ民族の伝承よりも日本神話に近いと云う不思議な状況に成っていたのだ。しかも中間伝承者が神々の超自然な優越性を説いたギリシャ神話やエジプト神話を日本列島に伝えたとしたら二〇〇〇年以上の開きを超えて伝えた事に成るが、その間神話を保持出来た民族や国家は有り得ず、一万年以上続いた縄文人以外には世界中を探しても存在しなかった。又ギリシャ神話には沢山の神々があり、日本人に合う神々もいた筈だが日本神話に似た神々が殆ど見当たらず、日本神話では神々の人間性を強く出して描かれたが、ギリシャ神話の神々の持つ潜在能力を低下させ、神々の不死の力を無くする等神々の神秘の力を消す必要性や意味が全く無く、寧ろ政権を擁護する為には、強力で神秘性の在った神々の方が都合が良い筈だったのだ。それは最高神のゼウス神の優越性や多面性等のキャラクターを消し去り女神の天照大神に変える理由が無く、縄文人達の文明が一万数千年以上続いた間に出来た神話や伝承を捨て去り、無関係なギリシャ神話をアイヌ人や縄文人、更に大和朝廷が取り上げた必然性が無かったのだ。更に日本神話には記・紀とアイヌ民族に共通した話が沢山含まれており、特にアイヌ人達が伝承を受け入れた時期が古い時代であり、大和朝廷だけで無く北海道までその神話を伝えるには日本列島に來ただけで無く、アイヌ民族等日本列島全体に強力な影響力を持った者で無ければ出来ない事だったのだ。

そしてインドのアッサム州より東の国々の神話には、全体を通じて似た物語を持つ民族が存在せず、もし中間伝承者が居たとしてもその民族は現在滅亡してしまったと考えられたが、其程影響力の在った神話であれば周辺の民族にその神話が残っていないのも有り得ない事だった。しかし粗筋に変節部分が少ない事等から又聞きの可能性が少なく、ギリ

シヤ人が直接日本列島に来なければ説明が付かない様な内容だったのだ。更に不思議な事には、古代ケルト神話の一部が古事記の内容と同じ筋立ての物語が存在したが、アイルランドのケルト神話はケルト人自らの神話等を捨て去り、古代に滅亡したとされた民族の宗教や生活習慣、思想等も取り入れており、その古代民族の神話を自らの神々に変えて自らの古代神話にした程の熱の入れ様で後継者として名乗りを上げていたのだ。其れは偶然の一致か大和朝廷が縄文神話を受け入れて、その神々を自らの祭神としたのと全く同じ事をしており、両後継民族が同じ事を行ったのには、驚きと共に歴史の不思議さを感じたのだ。しかしケルト神話はギリシヤ神話程有名な話では無く、アイルランドや英国と云う隔離された島々で滅亡した民族の民話を細々と伝えた話だった。そのケルト神話では、中間伝承者の存在も有り得ず地理的にも大変離れておりどの様にして日本列島に伝わったのか。更に当時の敵対国に巨大なローマ帝国が在ったが、ローマ・ギリシヤ神話にはケルト神話が殆ど含まれておらず、更にローマ帝国を超えて日本に伝わる可能性は有り得なかった。

更に似た個所を比較検討すると南米の伝説にも似た部分があり、それらを考察すると神話群を各地に伝えた民族が同一民族の可能性が高かったのだ。それはギリシヤ人がケルト神話や南米の民話を携えて太平洋を横断して日本列島へ来たと云うよりも、日本神話を作つた縄文人達が太平洋を横断して南米に辿り着いて国を築き、その国力が地中海まで及んで影響を受けた古代ギリシヤや古代エジプトが、神話を祖先からの伝承として共通したとする方が合理的な説明が付いたのだ。そうなると彼等が日本列島を旅立った時期を逆算すると神話が両国に伝わったのが五〇〇〇年前頃と成るので南米での建国の時期も含めると、今から約七五〇〇年前から一万年数千年ぐらい前頃の話と云う事に成ってしまうのだ。

それは日本神話の創世記が太古の記録として驚く程長期に渡り伝承した話であり、しかも縄文人達が日本列島を離れてからの歳月を考えると、一万年数千年前頃と云う気の遠くなる程遠い過去の話の可能性が強いと云えた。しかし神話の内容や登場人物には民族性が色濃く投影していて、普通に読むと各民族の状況や風俗・習慣、宗教感覚の違い等が話に反映されており共通性が気付き難い内容に成っていた。それは神々の資質や権限、名前や状況に手直しをした個所が多々存在した為に今まで類似性を感じなかったのだ。

つまり最高神で主役の神が記・紀では女神の天照大神で古代ギリシャ神話では男神のゼウス神で男女の差が在ったが、それ以上にゼウス神のキャラクターが唯一の最高神で絶対的な力を持っていて、更に神々には不死の力が具わり、死や恐怖、弱腰等の負の意思表示の感覚を持たない様に作り換えられていたのだ。つまり死んだイザナミ命の様に不死では無く、死んだ後に黄泉の女王に成っても怒り狂い夫を追い掛ける人間性を色濃く滲ませた日本の神々に対して、古代ギリシャの神々にはその様な人間性を露骨に表す性格を持たず、洗練された容姿や行動、更には驚く様な武器や道具を有して人間を動物や物の様に扱う超自然的存在として描かれていた。以上の事から単純で人間的な日本神話の方が元であり、色々複雑に脚色して物語り風書き換え、神々の力を向上させたのがギリシャ神話だと云えた。そして日本神話の創世記の最初の三神の話では、ギリシャ神話より似た話がエジプト神話に在った事から、紀元前三〇〇〇年前頃に成立したエジプト神話とギリシャ神話に影響を与えた話の大元は、両神話の内容を内蔵していて長期間文明が続いた縄文人達の日本神話しか無かったのだ。そして日本とギリシャ・エジプトの遠く離れた民族間に共通性が存在した意味と可能性、それが何を表すのか興味が在る事実だった。その理由を考

察すると日本神話が伝わった時に、最高神のゼウス神をギリシヤ国内で信仰していた為にギリシヤ人が信じた神々を中心にして、ケルト神話と同様に日本神話を取り入れて内容をギリシヤ神話の神々に当て嵌めて、神々の絶対性を強く出す様に意図的に変更を行ったと思えた。それを吟遊詩人が物語風にしていたが、神話の本筋の多くの部分が残っていたのだ。